

# 養成所ニュース

## 専任教員の 独り言 ~ 遠慮近憂 ~



社会福祉士養成所  
専任教員 五島 秀一

第18回国家試験に本養成所からは235名の方が合格されました。合格率28.0%という相変わらずの狭き門の中で合格された16期生を中心とした皆さんのご努力に対し、心から敬意を表しますと共に、衷心よりお喜びを申し上げます。

また、18期生として入学された324名の皆さん、おめでとうございます。既に自宅学習を開始されているとは思いますが、厳しい選考を突破しての入学でした。この学びのスタートラインに立つ事を許されるという事自体が、既にかなりの福祉的な資質を認められたことでもあります。この入学の志と喜びを忘れずに、社会福祉士の仲間入りを目指して真摯に学習されることを切にご期待申し上げます。

さて、私は相手が受講生に限らず、周りに居る誰彼となく様々な機会を捉えて福祉について語ります。具体的な仕事の内容云々というよりも、福祉がどのような方向に向かっているのか、そこに従事する者は何処を見るべきなのか、といった大局的な価値について話をします。なぜなら、福祉がより普遍的なものへと激変する時代だからこそ、その具備すべき価値や果たすべき役割について、社会全体で深く考えなければならぬと思うからです。つまり、福祉の「理想」について思いを馳せ、それを語るのが社会福祉士へ負託された社会的役割の一つだと思っております。

受講生や修了生からたまに連絡がくると、異口同音に現場の荒廃を憂えます。ともすれば人権侵害ともとれる関りが福祉の現場から一掃されない現実に直面した彼らは、遣り切れないのです。福祉を学ばなければこんな嫌なことに気付かずに済んだのにとさえ思っております。学んだ事を後悔しているのではありません。「遣る方無い」のです。

言い換えれば、社会福祉士の専門性の要素として、知識と技術と倫理観が高度にバランスすればするほど、今の福祉現場は「嫌な思い」をするのです。これが「理想」と「現実」のジレンマなのです。

「利用者の幸せ」に向かうためには、このジレンマに自分の中でどう対応して行くかが問われます。多くの現場人は忙殺され、そのような嫌な思いを胸に収めて仕事をします、見て見ない振りをする、気

付かない振りをします。あるいは資質として本当に気付かない連中もいます。しかし福祉の質を問われる今、果たしてそれで良いのでしょうか.....少なくとも社会福祉士は、そのようなジレンマに遭遇した時に、自らの立つ場所を知らなければなりません。

どのような困難や障壁があろうとも「理想」の側に立ち、利用者のアドボケイターとして、自分がガマンすれば即ち利用者がガマンしているのだと心得なければなりません。

常に対人援助を媒介するという福祉現場の特性においては、利用者が享受する幸せの度合いは支援者の力量とイコールです。その支援者の中心的役割を期待される社会福祉士は、様々な業種や職種に通じるジェネリックな価値を身につけた最良の支援者として、声を発して行かなければならないのです。

今回見事に国家資格を取得された方々も、これから専門家としての道を目指す18期生の皆様も、このような「ジレンマと向き合う自分」を意識して頂きたいのです。敢えて換言するならば、どのような「現実」に遭遇しても、「理想」を求め、語り、実践する姿勢を絶対に忘れないで欲しいと心から願っています。

『論語』に「遠慮近憂」という言葉があります。「遠慮り無ければ、必ず近き憂いあり」、つまり「遠い先の事にまで配慮しておかないと、必ず手近なところに心配ごとが起こるものである」というのです。遠慮を理想の福祉だとすると、近憂は現実の福祉。毎年のように財原論でバタバタしている福祉行政や施設運営、いつまでたっても人権感覚の成長しない低次元の現場風土。これらを現実とするならば、その真只中にある社会福祉士こそ、理想を求め、遠きを見つめ続けなければならないのです。福祉は人なり.....。

## 第18期生324名が受講スタート!

### 「第18期・新受講生を迎えて」

財団法人 日本知的障害者福祉協会 社会福祉士養成所



所長 小坂 孫次

第18期生の皆様。このたびは、社会福祉士養成所のご入学、おめでとうございます。

さて、わが国の社会福祉は、少子高齢社会の急速な到来により私たちの生活に様々な変革をもたらしてきています。そして、障害者自立支援法の施行、介護保険法の改正等は障害者・高齢者を取り巻く環境に大きな影響を及ぼしています。

そのような中、福祉に対する需要は増大、複雑・多様化し、ますます、ソーシャルワークの役割が求められています。そして、皆様方がこれから目指される専門的知識や技術を有する“人権と社会正義”を根拠とした「社会福祉士」の果たすべく役割にその専門職としての実践が大きな期待として寄せられています。

多くの方々が仕事や家事等と多忙な中での受講になるかと思えます。目標に向かって、邁進されることを期待し、今後における御健闘を心からお祈り申し上げます。

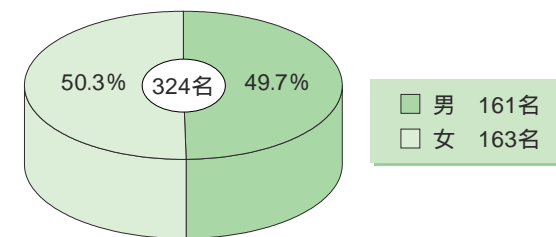
### 第18期生の概要 (4月1日現在)

第18期生社会福祉士養成所の受講生は、324名となりました。概要については下記の通りです。

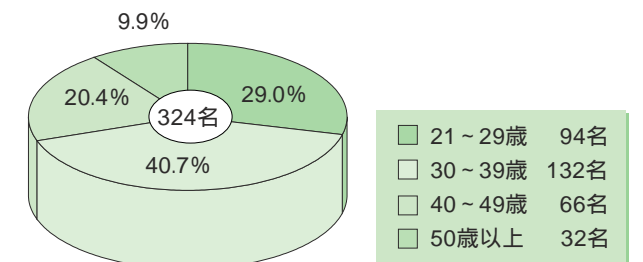
#### 応募状況 (過去3年間)

年度(期生)	応募者数	入学者数
平成16年度(16期生)	534名	327名
平成17年度(17期生)	475名	340名
平成18年度(18期生)	454名	324名

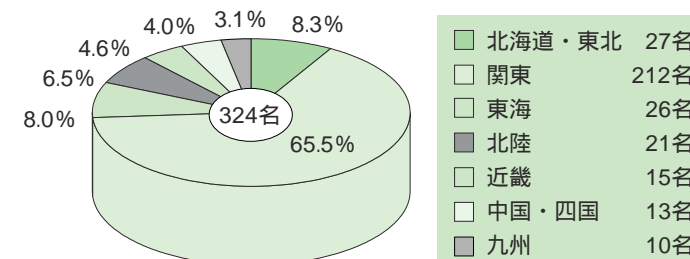
#### 受講生男女比



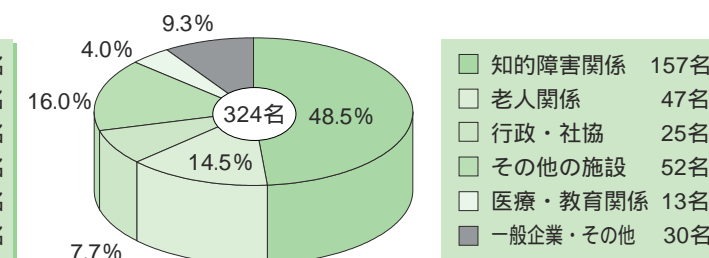
#### 年齢別分布



#### 地区別分布



#### 勤務先種別



### お知らせ さぼーと倶楽部(施設職員互助会) 「資格取得祝金」給付!

さぼーと倶楽部(施設職員互助会)では、平成17年度より資格取得祝金(10,000円)を給付しています。さぼーと倶楽部会員(施設職員互助会加入期間6か月以上)で平成17年4月1日以降に社会福祉士として登録した方が対象です。詳細は下記までお問い合わせ又は当協会ホームページをご覧ください。【問い合わせ先】さぼーと倶楽部(施設職員互助会)係【電話】03-3438-0466 施設職員互助会とは...本協会会員・準会員施設に施設に勤務している方を対象とした福利厚生事業です。

平成18年度 購読のご案内 2006年4月号(No.591)~2007年3月号(No.602)

**さぼーと** 知的障害福祉研究

- 毎月15日発行 ●B5判76ページ
- 1部 580円(税・送料)
- 年間購読料 6,300円(税・送料)
- ★当協会加入施設職員の方は5,000円で年間購読できます(1部470円)。

お申し込みは ..... ☎ 03-3438-0467 FAX 03-3431-1803  
当協会「さぼーと」係まで http://www.aigo.or.jp/

### 平成18年度スクーリング日程

- 第18期生前期 : 平成18年7月16日~18日 / パシフィコ横浜
- 第17期生 後期 : 平成18年8月14日~20日 / パシフィコ横浜
- 第18期生前期 : 平成18年11月23日~26日 / パシフィコ横浜

養成所に対するお問い合せ先

(財)日本知的障害者福祉協会社会福祉士養成所  
〒105-0013東京都港区浜松町2-7-19秀和第2浜松町ビル6階  
**TEL.03-3438-0984**  
ホームページアドレス <http://www.aigo.or.jp/>  
メールアドレス [yoseijo@aigo.or.jp](mailto:yoseijo@aigo.or.jp)

養成所に対するご要望・ご意見等ございましたら、ご連絡ください。

### 通信教育 Q&A 受講生の方からよくあるお問い合わせについてお答えします。

**Q1** 引越で住所が変わったのですが?

**A** ●住所・氏名・勤務先に変更が生じた場合には、すみやかに住所・氏名・勤務先変更届により届出てください。  
●上記変更は本養成所ホームページの登録変更フォームより登録変更することも可能です。  
●住所を変更した場合は、上記届出とあわせて、郵便局にて転送手続きを行ってください。

**Q2** 修了証明書を請求したいのですが?

**A** ●国家試験の受験等、本養成所修了後に修了証明書が必要な場合は、次の2点を用意し、本養成所庶務部あてに請求してください。  
①修了証明書交付願(受講の手引・ホームページに様式添付)  
②返信用封筒(返信先を明記し、80円切手を貼付したもの)  
●交付に際して、手数料は必要ありません。そのため、返信用封筒がない場合や交付願による請求でない場合は、発行できませんので、ご注意ください。

# 国家試験合格状況

第18回社会福祉士国家試験において本養成所より235名が合格しました。昨年度（第17回試験）は241名でした。

## これまでの国家試験の結果

	受験者数(名)	合格者数(名)	合格率(%)
第1回試験	1,033	180	17.4
第2回試験	1,617	378	23.4
第3回試験	2,565	528	20.6
第4回試験	3,309	874	26.4
第5回試験	3,886	924	23.8
第6回試験	4,698	1,049	22.3
第7回試験	5,887	1,560	26.5
第8回試験	7,633	2,291	30.0
第9回試験	9,649	2,832	29.4
第10回試験	12,535	3,460	27.6
第11回試験	16,206	4,774	29.5
第12回試験	19,812	5,749	29.0
第13回試験	22,962	6,074	26.5
第14回試験	28,329	8,343	29.5
第15回試験	33,452	10,501	31.4
第16回試験	37,657	10,733	28.5
第17回試験	41,044	12,241	29.8
第18回試験	43,701	12,222	28.0
合計	295,975	84,713	28.6

## 第18回社会福祉士国家試験合格基準

### 次の2つの条件を満たした者を合格者とする。

1 - 1 . 総得点150点に対し、得点80点以上の者（総得点の60%程度を基準として、問題の難易度で補正した。配点は1問1点である。）

1 - 2 . 試験科目の一部免除を受けた受験者（社会福祉士及び介護福祉士法施行規則第5条の2）総得点70点に対し、得点39点以上の者（総得点の60%程度を基準として、問題の難易度で補正した。配点は1問1点である。）

2 . 1 - 1 又は 1 - 2 を満たした者のうち、1 - 1 に該当する者にあつては、試験科目（ただし、社会福祉援助技術については、「一問一答問題」と「事例問題」をそれぞれ別個の試験科目とみなす。）14科目（1 - 2 に該当する者にあつては、6科目。）の各科目すべてにおいて得点があつた者。

## 第18回社会福祉士国家試験受験状況

受験者	合格者	合格率
43,701人	12,222人	28.0%

## 第18回社会福祉士国家試験正答一覧

社会福祉原論										
問題番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
正答	1	1	2	3	1	4	4	1	1	5
社会保障論										
問題番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
正答	1	4	3	5	2	2	2	3	4	4
公的扶助論										
問題番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
正答	5	3	5	1	4	5	1	正答なし	3	3
地域福祉論										
問題番号	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
正答	3	1	5	3	2	3	5	1	5	4
心理学										
問題番号	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
正答	5	3	5	4	4	2	2	1	3	3
社会学										
問題番号	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
正答	5	2	2	3	1	5	5	4	4	5
法学										
問題番号	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
正答	2	1	1	4	3	1	4	2	5	1
医学一般										
問題番号	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
正答	5	3	4	4	4	2	1	4	1	5

老人福祉論										
問題番号	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
正答	5	3	1	1	5	4	2	5	1	1
障害者福祉論										
問題番号	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
正答	1	3	4	3	4	3	2	5	2	4
児童福祉論										
問題番号	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110
正答	1	5	2	1	3	4	4	4	3	2
社会福祉援助技術（一問一答問題）										
問題番号	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120
正答	4	5	1	1	1	1	2	5	4	3
社会福祉援助技術（事例問題）										
問題番号	121	122								
正答	3	2								
社会福祉援助技術（事例問題）										
問題番号	123	124	125	126	127	128	129	130	131	
正答	3	2	2	1	2	1	3	1	3	
問題番号	132	133	134	135	136	137	138	139	140	
正答	4	2	5	2	1	2	1	5	3	
介護概論										
問題番号	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150
正答	4	4	2	5	2	1	4	2	3	4

財団法人 社会福祉振興・試験センター 2006.3.31 発表

## 残念ながら合格できなかった方々からの反省とコメント（アンケートより抜粋）

・模試を受けるべきだと思いました。また、勉強不足を反省しています。・毎日少しでも勉強すること。きちんとテキストを読むこと。・試験勉強に充てる時間の確保ができなかった。・勉強不足を痛感しました。やはり早くからきちんと勉強することが一番大事だと思います。・時事問題にあまり取り組まなかったことを後悔しています。お金をケチらず、厚生労働白書などいろいろ見ておくべきでした。・過去問を中心に勉強したが現在の動向についてももっと勉強しておくべきだった。・仕事の関係で勉強する時間がなかったので無理してでもつくる必要がある。・勉強不足でした。いつも以上に難しく、もっと勉強が必要であると痛感させられた。・苦手科目が3つ以上あるとさすがに点は取れないと感じた。・通信教育が終わってホッとしたのか、その後の勉強が手に付かず、まったくの実力試験になり反省しています。次回頑張りたいと思います。

その他のコメントにつきましてはホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

## 国家試験合格者の声

### 青柳吉保さん

福祉の概念すら無知であった私が古本テキストのお蔭で養成所入学を果たし、初めて新版本を手にした感激は、無事最終ゴールを過ぎた今でも目の前に浮かびます。家族の最期を看取る中で思い、人生の折り返しを過ぎた中で目覚めた学習への再意欲は、不思議と社会福祉分野に向かっていました。そして学生に代れるなら、絶対実現したい夢がありました。それは過去の丸暗記競争には二度と嵌らず、有識者が推敲を重ねて仕上げたテキストを隅から隅まで深く読み込むことでした。

それが可能になり毎晩そして週末は、ワクワクしながらページを捲りました。気づくと後期スクーリング迄に全テキスト三回読破していました。しかし、福祉実践経験のない私が、深い理解を得るには補助教材が必要になります。それはボランティアであり、次に放送大学でした。妻と娘に録音・録画を頼み、通勤・出張時は常にプレーヤー同伴です。福祉分野に留まらず、年金医療、社会学、心理学、息抜きに日本近代史等多岐に亘る盗講学習は、孤独な通信教育を支えてくれた陰の恩人です。勿論残り数ヶ月は受験モードで過去問題、ワークブックそして模擬もやりました。

しかし、皆さんも既にご承知の如く、今回の本試験では、原論、年金、地域福祉で基礎知識や話題を集めた問題が皆無に近い有様で、午前の試験中何度も頭の中が白くなった事を白状します。その時救ってくれたのは、三度のテキスト熟読により、歴史、人物、理論形成、法令などを不完全ながらも、頭の中で整理出来た自信であり、引っ掛けの多い多項選択設問から94点を与えて貰えました。

ご自身で選ばれた貴重な時間を「早く過ぎて欲しい」と考えるか、素晴らしい与えられた時間と考えるかは、ず～と後になって納得出来ますよ！

### 中村智恵美さん 「一度で合格するために私がしたこと」

16年春、職場で平均年齢を上げている熟年層に入っている私は「1度で合格する、絶対に」という強い思いを胸に養成所の勉強をスタートさせました。レポートの再提出もあったため、試験勉強を開始したのは10月に入ってからで、残り4ヶ月を切っていました。さらに、不規則勤務と家事でなかなかまとまった時間を作ることはできません。焦りと不安でいっぱいでしたが、そのことが逆に集中力を生むことになりました。私の場合は隙間時間を有効に利用しました。夕食の買い物に出かけた時、早めに職場に着いてしまった時などまだ時間があると思えば車を止めて、たとえ30分でも勉強しました。そうしているうちにいつのまにか車の中が一番集中できる場所となり、休日にもスーパーの駐車場などに車を停め勉強しました。働きながら試験に挑戦する場合、勉強する時間がないと考えられがちですがそれは勉強機に向かおうと構えるからではないでしょうか。実際は集中力さえあればいつでもどこでもできると思うのです。とは言いつても、試験は目前に迫っているのですから効率の良い勉強をしなければなりません。私の場合、スクーリングで使用した資料、指導書等を中心に基礎を徹底的に繰り返し勉強しました。その他には最新の模試問題集を使用し、時間のあまる時に繰り返し行いました。また、問題にばかり捉われていると全体のどの部分をやっているのか解らなくなるので、参考書を読んで確認し、テキストは辞書代わりに使用しました。ノートは時間がかかるので作らず、大切だと思うことはすべて参考書の余白に書き込み、覚えにくい人名などはイラストにして覚えました。

1度で合格するためには勉強方法や時間の作り方だけでは強い動機も必要です。「どうしても社会福祉士になりたい」という一途な思いを持ち続けることで、環境、年齢などの問題も逆に自分の力とし、過酷な受験生活を乗り切ることができるのだと思います。

## 国家試験に向けてのおすすめ図書

### <最近の動向や数値に関する情報源として>

- 国民の福祉の動向（厚生統計協会）
- 厚生労働白書（ぎょうせい）
- 福祉新聞（福祉新聞社）

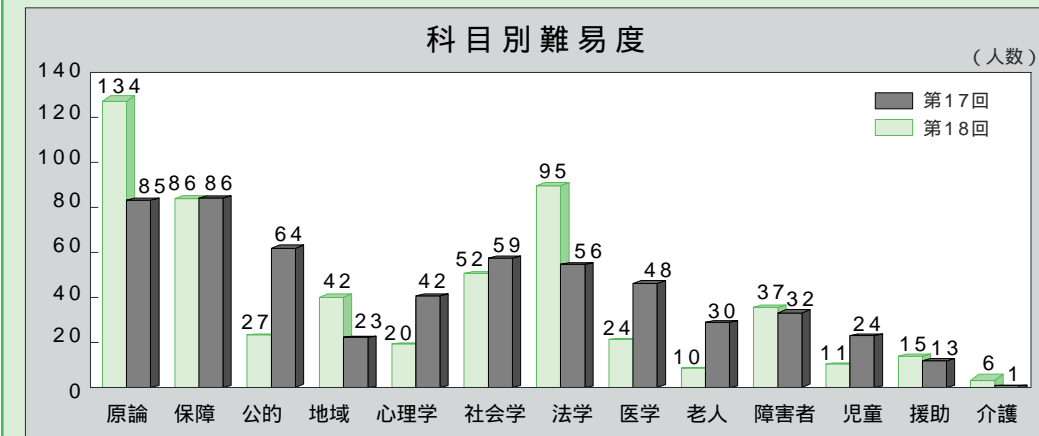
### <最後の仕上げや知識の整理に>

- 必携・社会福祉士（筒井書房）
- 社会福祉士・受験ワークブック（中央法規）
- 社会福祉用語辞典（ミネルヴァ書房）

## その他合格者の声（アンケートより抜粋）

・新聞をふだんから読んでいた方が良かった（福祉に限らず幅広い情報、動向をキャッチする）。・自分を信じ勉強あるのみだと思います。一日二時間は必須でしょう。・過去問には深入りせず、出題形式、時間配分（本番は時間ギリギリでした）等のみに利用する。最新の時事、統計データも興味を持つ。科目などの単独ではなく、横断的な幅広く知識を習得する。・過去問を何度も行い、各教科の基本事項をマスターしていった。又、法改正などの最新情報はスクーリング中で使用した資料や講義内容メモを活用し把握した。・レポート課題作成時に関連する書籍や文献・資料を十分読み、新しい福祉制度や動向を理解するようにしました。また、スクーリング間、講師の先生から教えていただいた内容は何度もメモを読み、過去問で傾向に慣れました。・15～17年度過去問・模擬試験・福祉新聞・国民の福祉の動向・厚生労働白書等を活用しました。過去問は繰り返し解いて8～9割正答できるようにするまで学習しました。・事例問題では普段の業務での経験が役に立ちました。・毎日、1回はテキストなどを手にする。・過去問をスクーリングのときにしっかりやる。・その他のコメントにつきましてはホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

## 第18回国家試験に関するアンケートについて



平成17年9月に修了した第16期生315名を調査対象とし、213名（受験をした195名、申込をしたが当日受験をしなかった7名、申込をしなかった11名）からの回答が得られました。（5/16現在）左図は受験者の意見を参考に科目別難易度を示したグラフです。社会福祉原論・法学・社会保障論・社会学・地域福祉論の順に難しいと回答しています。なお、昨年度（回答数222名）と比較すると法学の難易度が高くなっています。厚生労働省へ報告の関係上、現在もアンケートは回収しています。なお、回答がない方には、催促の連絡をする場合がありますのでご了承ください。